

### 於る既往性血清反應に就て

鳥邊 亮逸

既往に免疫操作を受けて免疫體を獲得せる動物に、時日の經過後免疫體の一旦下降せる後或は消失後第二次操作として同種又は異種抗原を移植する事を既往性血清反應といふ。

余は家兎「トリパノゾーマ」の自働免疫に於て該現象發現の有無及經過を究明せんとして「アグロメラチオン」現象を示標として本實驗をこころみたり。

### 經皮免疫に関する實驗的研究(其二)

第三編 腸「チフス」A型B型「パラチフス」豫防接種による抗體減退乃至消失後に同抗原を以ての經皮免疫(豫報)

松室 守義

「チフス」菌、「パラチフス」菌(A型B型)「ワクテン」皮下注射即ち制式腸「チフス」豫防接種完了によりて生ぜる抗體の減退又は消失後に於て同「ワクテン」塗布を施す時は被塗布人體血中に抗體の産生を認む。又同血中には鼠「チフス」菌赤痢異型菌(F型及Y型)に對する凝集素を認めず。

### リーチンベルグ氏反應に関する知見補遺

#### 第5編 季節と血小板帯荷現象

高崎 澄

「レイシュマニア・ドノヴァニ」の純粹培養を使用し健康「マウス」の血液に就て四季を通じ血小板帯荷現象を實驗したるに冬期及早春に強陽性なりし血小板帯荷現象は晩春より初秋に亘りて成績不定となり且陰性に傾く事實を認め得たり。即該現象と季節の間には或程度の關係あるものゝ如し。(以上伯井抄)

## 皮膚と泌尿

6卷 2號 (昭13年4月)

### 皮内出血に續發せる廣範なる持久性

#### 皮膚色素斑の一例

中村 實

34歳女子の胸腹部脊部及兩側上膊部に亘る皮内出血に續發した廣範な持久性色素沈着斑で血

液所見としては血小板數増加し、赤血球は滲透最小抵抗力の低下及び沈降速度の促進を示した。尙組織學的には真皮上層に於ける色素細胞の顯著増多、毛細血管充盈及出血竈を認めた。

### Boeck 氏類狼瘡の二例

田中 謙

第1例は27歳女子の兩側下腿に、第2例は35歳女子の顔面に生じた本症例で、兩例共ビルケ氏反應は陽性を示し第2例に於ては既往に結核性頸部淋巴腺炎と結核性鞏膜角膜炎があつた。治療法としては第1例は「ツペオクリン」療法にて相當の効果を認め、第2例は金製劑 Gurgol にて良効を収めた。

### 乳嚙狀潰瘍性膿皮症の二例

管井 正憲

16歳中學生及60歳男子農夫の、前者は足背に後者は手背に何れも刺傷に續發した本症の2例を報告してゐる。

### 外傷性腎出血の三例に就て

大川 隆之

一般に腎臓皮下損傷と呼ばれる本症の3例を報告し本症は血尿が唯一の症狀で患側も膀胱鏡的にのみ確定し得たもので輕微な外力に因つても腎出血を來し得且外力の強弱と血尿の程度又は腎損傷の程度とは必ずしも一致しないものであると。

### 腎臓良性混合腫瘍の一例

樋口謙太郎

44歳の男子に慢性に來り一見悪性腎腫瘍を疑はしめた患者で、手術後組織的検査により比較的稀な腺腫及び血管腫から成る良性混合腫瘍であつた。

### 口角糜爛症に於ける血清學的研究

津留 壽

口角糜爛症の19例に血清反應を行つたが、症狀が定型的である場合は明かに免疫反應物質の存在を認めた。而して本症と關係ない糞便中酵母菌保有者との間に血清學的に差異を認める事は至難であるが多少の参考は期待される。

### 白癩風の統計的觀察